

<アイデア>

公民的分野「D (1) 世界平和と人類の福祉の増大」

統計などの資料から目的に応じた情報を選別して読み取る技能を活用して、我が国の望ましい国際貢献の在り方について考察し、表現するためのアイデア

【学習問題】

我が国のODAによる国際貢献は、どのように進めていけばよいのでしょうか。

The screenshot shows a Jam board with the following content:

- 援助額を増やす**
 - これからの日本は、高いGNPIに見合った国際援助をしていくべき。(Aグループ)
 - 日本は十分に豊かなのだから、借金をしてでも支援をした方がいい。(Dグループ)
 - 他の先進国と同じレベルの国際援助をするべき。(Fグループ)
- 効率の良い支援**
 - 金額だけではなく、本当に必要なところに効率よく支援するべき。(Eグループ)
- 自国経済を優先**
 - 自国の経済を安定させてから、国際援助を増やせばいいと思います。(Bグループ)
 - 外国より、日本の中で困っている人たちに経済的な支援をするべきだ。(Cグループ)

本單元に関する学習指導要領の内容 公民的分野「D(1) 世界平和と人類の福祉の増大」

D 私たちと国際社会の諸課題

(1) 世界平和と人類の福祉の増大

対立と合意，効率と公正，協調，持続可能性などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(イ) 地球環境，資源・エネルギー，貧困などの課題の解決のために経済的，技術的な協力などが大切であることを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 日本国憲法の平和主義を基に，我が国の安全と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

＜本アイデアのポイント＞

- ・ ODAの用途についての資料から、よりよい社会の在り方について、考察する力を育成することが期待できます。

【展開例】

- ①「未来に架けたきずな橋」の資料から読み取ったことをもとに話し合う。
- ②本時の学習問題を設定する。
- ③三つのグループに分かれて、それぞれの資料から読み取れることをまとめ、発表する。（Google Drive を使った例）
 - 「ODAの額とGNIに占める割合」（図1）
 - 「ASEAN加盟国の一人当たりのGNIと我が国との二国間ODAの実績」（表1）
 - 「東アジア地域に対する我が国のODAの概要」（図2）
- ④グループごとの考えをまとめ、学級全体で話し合う。（Google Jamboard を使った例）
- ⑤個人で考えをまとめる。

展開① 「未来に架けたきずな橋」の資料から読み取ったことをもとに話し合う。

Google Jamboard の活用例として、意見ごとにグループ化したり、付箋の色を変えたりして、意見を共有する場面を設けています。



資料 未来に架けた「きずな橋」(カンボジア)



(切手になった「きずな橋」)

地では日本語の「きずな」をそのまま使って、この橋を「きずな橋」と呼んでいる。(外務省「ODA60年の成果と歩み」から作成)

1990年代、内戦で疲弊していたカンボジア経済の立て直しに向けた協力の一環として日本はODAによってメコン架橋建設を支援した。これによって、地方と首都を結ぶ交通輸送が整備されて、社会や経済が安定してきている。現地では日本語の「きずな」をそのまま使って、この橋を「きずな橋」と呼んでいる。(外務省「ODA60年の成果と歩み」から作成)

日本はODA支援によって、外国から感謝されているんだね。



展開② 本時の学習問題を設定する。

【学習問題】

我が国のODAによる国際貢献は、どのように進めていけばよいのでしょうか。



我が国のODAの使い道について、三つの資料を用意しました。そこから分かることやこれまでの三分野での学習を生かして考えていきましょう。

まずは、これまでの日本のODAの特色を調べてから、有効な方法を考えたいな。



展開③ 三つのグループに分かれて、それぞれの資料から読み取れることをまとめ、発表する。 (Google Drive を使った例)

ドライブ

マイドライブ > 第3学年_公民_国際貢献

ファイル

名前 ↑

第3学年_公民_国際貢献

詳細 履歴

アクセスできるユーザー

共有なし

01 「ODAの額とGNIに占める割合 (2016年)」

02 「ASEAN加盟国の一人当たりのGNI 我が国との二国間ODAの実績」

03 「東アジア地域に対する我が国のODAの概要」

	国名	一人当たりのGNI (ドル)	我が国との二国間ODA額 (百万ドル)
加盟国	インドネシア	3 440	479
	タイ	5 620	173
	フィリピン	3 540	542
	マレーシア	10 570	76
加盟国 (加盟)	カンボジア	1 070	106
	ベトナム	1 980	1 419

まずは、グループごとに担当する資料を取り出し、資料から「読み取れること」は何かを考え、グループでまとめましょう。

プロバラ

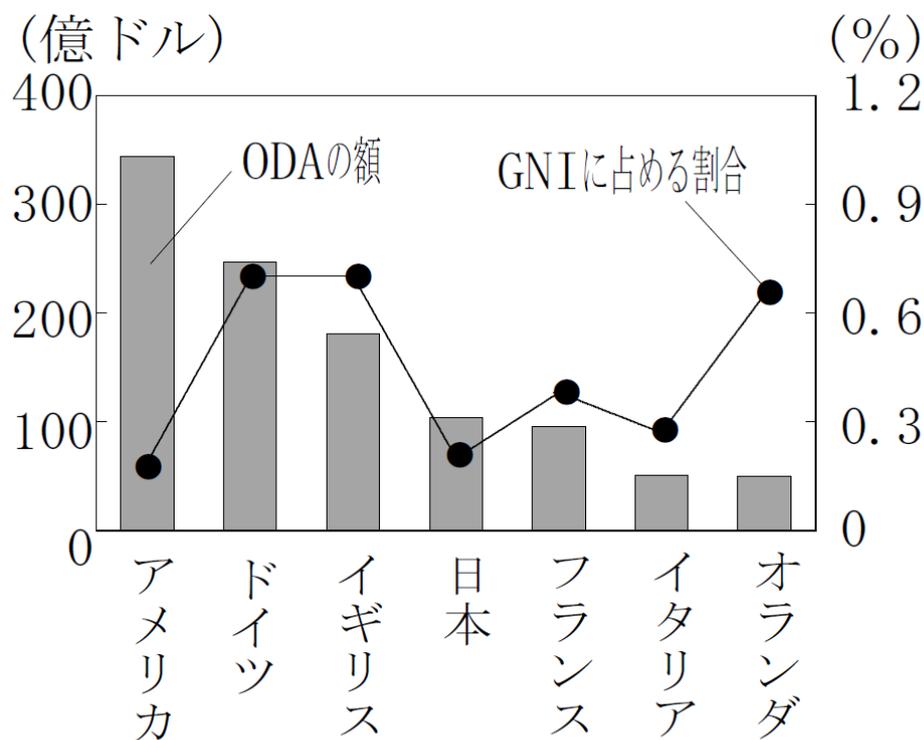
Google

マ



展開③ 「ODAの額とGNIに占める割合」のグラフから読み取れることをまとめ、発表する。

図1 ODAの額とGNIに占める割合 (2016年)



(「データブック・オブ・ザ・ワールド」2019)から作成)

日本のODAの額は、100億ドルを超えているものの、GNIに占める割合は低いことが分かります。



展開③ 「ASEAN加盟国の一人当たりのGNIと我が国との二国間ODAの実績」の表から読み取れることをまとめ、発表する。

表1 ASEAN加盟国の一人当たりのGNIと我が国との二国間ODAの実績

	国名	一人当たりのGNI (ドル)	我が国との二国間 ODA実績 (百万ドル)
先発加盟国	インドネシア	3 440	479
	タイ	5 620	173
	フィリピン	3 540	542
	マレーシア	10 570	76
後発加盟国 (1995年以降に加盟)	カンボジア	1 070	106
	ベトナム	1 980	1 419
	ラオス	1 730	107

(「外務省資料」から作成)

一人当たりのGNIは、ASEANの後発加盟国の方が、先発加盟国より低い傾向が読み取れます。

日本との二国間ODAの支援額は、ベトナムやフィリピン、インドネシアなどが高くなっていることが分かります。



展開③ 「東アジア地域に対する我が国のODAの概要」の資料から読み取れることをまとめ、発表する。

図2 東アジア地域に対する我が国のODAの概要

我が国は、東アジア諸国の経済社会状況の多様性や援助需要の変化に留意し、戦略的に支援の重点化を図っている。近年高い経済成長を達成している国に対しては、技術協力を中心として、(中略)、依然として所得水準の低い国に対しては、無償資金協力を活用しつつ、貧困削減、保健・医療、教育等、格差是正や持続的成長に資する支援等を継続している。

(「外務省資料」から作成)

東アジア地域に対する我が国からのODAは、経済成長している国には技術協力を中心に、所得水準が低い国には無償資金協力を中心に支援を行っていることが分かりました。



展開④ グループごとの考えをまとめ、学級全体で話し合う。 (Google Jamboard を使った例)

Google Jamboard を使って、グループごとの意見を共有します。一つの画面上で類似する意見ごとにタイトルをつけて分類します。付箋の色は、後からでも変えることができるので、意図によって色を変えて示すなどの工夫も考えられます。

日本も先進国として、国際貢献の立場から、今よりもODAの額を増やしていくべきだと思う。



私は、自国の借金をなくし、経済を立て直してから、額を増やしていった方がいいと思うわ。

展開④ グループごとの考えをまとめ、学級全体で話し合う。
(Google Jamboard を使った例)

Google Jamboard を使って発表し合う。

付箋紙機能でグループの意見を30文字程度でまとめさせる。

無題の Jam

背景を設定 フレームを消去

これからの日本は、高いGNPに見合った国際援助をしていくべき。
(Aグループ)

自国の経済を安定させてから、国際援助を増やせばいいと思います。
(Bグループ)

外国より、日本の中で困っている人たちに経済的な支援をするべきだ。
(Cグループ)

日本は十分に豊かなのだから、借金をしてでも支援をした方がいい。
(Dグループ)

金額だけではなく、本当に必要なところに効率よく支援するべき。
(Eグループ)

他の先進国と同じレベルの国際援助をするべき。
(Fグループ)

展開④

グループごとの考えをまとめ、学級全体で話し合う。
(Google Jamboard を使った例)

ペン機能で類似する意見を囲む。

それぞれの意見を比較し、似ている考えをグループ化し、タイトルを付ける。

The screenshot shows a Google Jamboard interface with several sticky notes and groupings. The notes are organized into three main groups, each with a title circled in red:

- 援助額を増やす (Aグループ)**:
 - これからの日本は、高いGNPIに見合った国際援助をしていくべき。(Aグループ)
 - 日本は十分に豊かなのだから、借金をしてでも支援をした方がいい。(Dグループ)
 - 他の先進国と同じレベルの国際援助をするべき。(Fグループ)
- 効率の良い支援 (Eグループ)**:
 - 金額だけではなく、本当に必要なところに効率よく支援するべき。(Eグループ)
- 自国経済を優先 (Bグループ)**:
 - 自国の経済を安定させてから、国際援助を増やせばいいと思います。(Bグループ)
 - 外国より、日本の中で困っている人たちに経済的な支援をするべきだ。(Cグループ)

Yellow callout boxes provide additional context: one explains that the pen function was used to group similar opinions, another explains that titles were added to group similar thoughts, and a third explains that the sticky note color was changed to yellow to highlight the focus.

付箋の色は、タイトルごとに変えることができる。ここでは、注目したい考えの付箋を黄色にして示した。

展開⑤ 個人で考えをまとめる。



資料から分かったことや、話し合いを基にして、これからの日本の国際貢献の在り方について、自分の考えをまとめましょう。

【まとめ】（例）

日本のODAの額については、国際社会に果たすべき役割の面から、今後増やしていくかどうか検討していく必要があると思う。また、日本は、これからもODA等を活用して、限られた財源を工夫して、より効果的に使いながら、発展途上の国々に支援を続けていくべきだと思う。これからも、国際連合等の国際機構と協調しながら、世界平和を目指し、国際貢献に努めるべきだと思う。